EGGPLANT

エッグプラント
Nファミリー
ホームスクール通信
2006.10.1
No.27

歴史が語ること

「歴史」から何を連想するでしょうか。いきなり類人猿のややこしい名前。地名、人名、出来事が次から次に出てきて覚えられない、と苦手な人も多いことでしょう。

ご存知のように、歴史は大きく紀元前と紀元後に分かれます。それはイエス・キリストの誕生を境にして二分されています。「キリスト以前（B・C）」と「主の年（A・D）」です。（正確にはイエスは紀元前四年か五年に誕生したと言われています。）歴史の中には聖書の影響が至るところにありますが、今回は「歴史」そのものについて考えていきます。

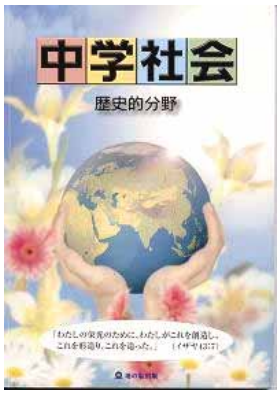
私たちが普段接している歴史観は「進化論」に基づいています。人間は猿から進化したと始まり、いきなり紀元前三千年ごろの四大文明に展開していきます。しかし「創造論」すなわち聖書に基づく歴史の見方もあるのです。上や右下の世界史の教科書はその観点で書かれたものです。（ホームスクーラー用として書かれました。）

「序」には、歴史について先人たちのとらえ方が記されています。

「過去を知ることには大きな利点がある。あらゆる種類の経験がそこにあり、すべての人がそれを見ることができる。…一人ひとりの人や一つひとつの国家が見習うべき手本であり、すべての人や国家が避けるべき恥に満ちた行為である。」　（ローマの歴史家・リヴィウス）

次は「歴史家と歴史家が用いる資料」です。歴史家たちは「人工物（人間が造ったもの）」「伝承」「文字を用いて記録されたもの（文学、日記、手紙、記録文書、粘土板、碑文など）」を用いて歴史を探求してきました。しかし、それぞれ欠点があり、間違って解釈してしまうこともよくあったのです。その中で、不変で、長い間検証されてきた「聖書」が最も信頼できるものであることを説明しています。

「歴史とあなたとの関係」の項もあります。



「歴史を学んでいると、神がすべてのことに対して完全な計画を持っておられることに気づくでしょう。神はあなたの人生に対しても計画を持っておられます。…」

聖書は、創造主なる神が人間をどのようにとらえ、人間に何をなされたかということを記しています。創造主から遠く離れた人間のために、神は救い主イエスを送ってくださいました。世界歴史を動かしながら聖書に予言していたように、神の計画が徐々に遂行されているのです。

「先に起こった事は、前から私が告げていた。それらはわたしの口から出、わたしはそれを聞かせた。にわかに、わたしは行い、それは成就した。」　（イザヤ四十八章三節）

聖書に立った歴史観には、明確な初めと終わりがあります。人間の歴史の終末には、なんとイエスが再びこの世界に来られると聖書は語っています。それもイスラエルのオリーブ山に、と場所まで明言しています。これを「再臨」と言います。十字架にかかって死なれたイエスは、本物の救い主であることの証拠として、死を打ち破り三日目によみがえり、四十日後に昇天しました。今も生きておられるゆえに、世の終わりに再び来られるというのです。月に帰ったかぐや姫でもあるまいし、と思われるかもしれません。しかし、この「再臨」については聖書が語る未来の中心主題とも言え、聖書の影響を受けている人々の間では有名な話なのです。

人生に示唆を与える学問の楽しさと、正しく歴史をとらえる必要性を実感させられます。

こんなことしました！　行事報告

九月

二日　自然史博物館「大和川の自然」
四日　ヨセフ・シュラム氏が訪問
九日　日曜学校お楽しみ会
十三日　天文台研究員が訪問
十七日　空手夏季昇級審査
十九日　JCチャーチスクール訪問
二十二日　姫路城見学
二十五日　おいも掘り
二十六日　関西ホームスクーラーの集い

Nの読書コーナー

「ガラスのうさぎ」　高木敏子著

この主人公の名前は敏子で太平洋戦争でお父さんやお母さんや妹たちも死んでしまいました。お母さんと妹の信子と光子は、一九四五年三月十日の東京大空襲で死んでしまいました。お父さんは、機銃掃射でお父さんも死んでしまいました。お兄ちゃんの行雄さんが帰ってきてまたいっしょに住めると思ったけど家が東京大空襲で焼かれてさしまったので敏子は親せきの家にとまらせてもらうことになりました。そこが田舎の仙台だったので都会の東京で生まれ育った敏子には、畑仕事やヤギの世話、水くみなどのお手伝いができなくて一人で東京に帰ってしまいました。ほんのバラックですが小さな家を建てました。そして広島や長崎に原爆が落とされた後、ついに戦争が終わりました。戦争の中を生きぬいた少女の感動の本です。ぜひ一度読んでみてください。

今回はただ行って見てくるだけではなく、事前に姫路城についていろいろと調べました。調べると資料の多さに驚きました。姫路城にまつわるいろいろな話を知ることができて、とても楽しかったです。そして実際に行って、見てみると驚くほど楽しめました。事前学習のすごさがわかりました。行っただけで終わるのではなく、報告書を作成することもできました。

詳しくはホームページで。　http://www.geocities.jp/knasu3/　(M)

↑　さすが文化遺産であり日本一の城とあって眺めが最高でした。

姫路城へ行ってきました！

姫路城の通路は迷路のように曲がりくねり、広くなったり狭くなったり、さらには天守へまっすぐ進めないようになっています。門もいくつかは一人ずつ通るのがやっとの狭さであり、又は分かりにくい場所。しかも写真の「は」の門をくぐってすぐの階段はとてもすべりやすくなっています。とにかく進みづらい構造をしています。戦国時代の攻撃側としては迷惑であり、観光客の側としては疲れます。

←姫路城には石落としという仕掛けがあり、写真を見ればわかるようにすきまから、石を落としたり、熱湯をあびせたりして敵を追い払います。姫路城の石落としは、装飾かね美しいものです。

→石垣の石にはその石を運んだ者の刻印が彫ってあると聞き、探してみました。思ったよりも見つかりにくく、見つけた時には宝物を見つけたようにうれしかったです。写真は最後に見つかった丸の中に漢数字の「九」の模様の刻印です。

編集後記

ユダヤ人でイエスを信じているシュラムさんが我が家に食事に来てくださいました。ユダヤ人は旧約聖書を小さいときに暗唱するそうです。ヘブライ語で少し披露してくださいました。